令 和 ６ 年 ２ 月 20 日

第 153 回火山噴火予知連絡会による全国の火山活動の評価

全国の主な火山活動評価

桜島

南岳山頂火口では 10 月中旬から下旬にかけて爆発が増加する等、一時的に噴火活動が活発となりました。また、昭和火口では、2023 年２月上旬から噴火活動が時々みられています。

火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、概ね多い状態で推移しています。

桜島島内の傾斜計、伸縮計及び GNSS 連続観測では、2023 年４月以降特段の変化は観測されていません。

７月下旬には桜島の南西側を震源とするＡ型地震が増加し、最大震度２を観測する地震も１回発生しましたが、８月以降は減少傾向となりました。

GNSS 連続観測では、姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線において、長期にわたり姶良カルデラの地下深部の膨張を示す緩やかな伸びがみられています。

姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部ではマグマが長期にわたり蓄積した状態と考えられ、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は概ね多い状態で経過していることから、火山活動は活発な状態と考えられ、今後噴火活動が再び活発化する可能性があると考えられます。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

口永良部島

口永良部島では、６月以降、火山性地震が次第に増加し、７月に入ってさらに増加しました。その後も増減を繰り返しながら多い状態で経過しています。火山性地震は主に古岳付近で発生していますが、新岳付近での発生も認められます。新岳西側山麓を震源とする火山性地震は発生していません。

８月に実施した上空からの観測では、古岳火口内で新たな噴気地帯が形成され、地熱域が拡大しているのを確認しました。10 月以降の観測では噴煙量が減少しているのを確認しました。新岳周辺の地熱域には特段の変化は認められませんでした。

干渉 SAR による地殻変動観測では、５月頃から８月頃にかけて古岳付近の数百ｍの範囲で衛星に近づく変動が観測されました。GNSS 連続観測では、６月頃から 10 月頃にかけて古岳付近の膨張を示唆する変動が観測されました。なお、口永良部島のやや深部に多量のマグマが供給されたことを示唆する地殻変動は認められていません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない状態で経過していましたが、７月には１日あたり 100 トンと増加し、８月から９月にかけて 200～400 トンとさらに増加しました。その後、次第に減少していますが、数十トン～200 トン程度の状態で経過しています。

口永良部島では、火山性地震の増加、山体膨張を示す地殻変動が観測されるなど、火山活動が高まっており、新岳及び古岳火口周辺において噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル３、入山規制）発表中

浅間山

2023 年３月中旬以降、浅間山の西側での膨張を示すと考えられるわずかな傾斜変動が観測され始め、GNSS 観測でも西山麓の基線で伸びが認められました。３月下旬以降、山体浅部を震源とする火山性地震が増加し、火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量も、

それまで 200 トン以下であったものが、３月下旬以降は 400～2500 トンに増加しました。
そのようななか、６月 18 日頃から西側での膨張を示すと考えられる傾斜変化がやや加速し 23 日に一時的に BH 型地震が増加した直後に傾斜変化が元に戻るという現象があり、翌 24 日から二酸化硫黄放出量が増加し、29 日未明には、高感度の監視カメラで山頂火口の微弱な火映を観測しました。また、７月３日から５日にかけても６月と同様の傾斜変化がやや加速し、５日には火山性地震の日回数が 161 回に達するなど多くなりました。その直後の６日の観測で二酸化硫黄放出量が１日あたり 200 トンと顕著に減少しました。
その後、火山性地震は、７月下旬以降、概ね少ない状態で経過し、山体の西側での膨張を示すと考えられる地殻変動は 11 月頃より停滞しました。一方、二酸化硫黄放出量は、１日あたり 500 トン前後で推移し、2023 年３月下旬以前に比べて多い状態が続いています。
以上のように、浅間山の火山活動は高まった状態が続いており、小噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

<u>硫黄島</u>

期間中翁浜沖で断続的に噴火が発生しました。
６月 15 日から 24 日にかけて、翁浜沖で水柱が数分から十数分間隔で、海面から数ｍの高さまで噴出している様子が確認されました。また、噴火地点付近で、変色水や軽石と思われる浮遊物が確認されました。上空からの観測でも変色水が確認されました。
10 月 21 日からも噴火が再開し、黒色の噴出物を含んだ水柱が１分未満～数分間隔で、海面から数十ｍ～百ｍ程度の高さまで噴出している様子が確認されました。また、噴火地点付近で、変色水や軽石と思われる浮遊物が確認されました。30 日の上空から行った観測で噴火地点のすぐ北側に主に岩塊で構成される直径 100ｍ程度の陸地が形成されていることが確認されました。陸域観測技術衛星だいち２号による観測でも、陸地の形成が確認されました。水柱や噴煙の噴出間隔が次第に短くなり、11 月３日には数秒間隔の噴出が観測されるようになりました。４日からは身体に感じる程度の爆発音、空振を伴う噴火が続きました。噴火は、12 月にかけて断続的に観測され、12 月 11 日以降一旦停止しましたが、31 日から再開し、2024 年１月６日まで続きました。夜間に赤熱した火山弾の噴出もしばしば視認されました。漂着した火山弾や軽石の分析結果から、2022 年の噴火と類似した粗面岩質マグマが噴出したものとみられます。
噴火地点付近に出現した新たな陸地の大きさは、11 月 23 日の海上保安庁による観測では、南北約 450ｍ×東西約 200ｍまでになりましたが、その後の観測では、波浪による侵食によって面積は小さくなっているのが確認されています。
また、11 月 18 日に島北東部で白色噴煙が認められ、19 日には過去に土砂噴出や噴湯が発生した島北東部の海岸に直径 30ｍの火口が存在し、その周囲に灰色で粘土が含まれる砂礫質の火山灰の分布が認められました。また、直径 10 ㎝程度の噴出した岩塊が火口から 90ｍから 120ｍ程度の範囲に分布していることも確認されました。
翁浜沖での噴火に伴い、単色型微動が断続的に観測されましたが、その他の火山性地震や微動はやや少ない状況で経過しました。
GNSS 連続観測により長期的に認められている島全体の隆起を示す地殻変動は、継続しています。干渉 SAR 解析では、元山付近に収縮とみられる変動が、摺鉢山付近に周囲と比べて衛星から遠ざかる変動がみられます。また、阿蘇台断層に沿って変動がみられます。
2022 年以来、硫黄島ではマグマの噴出がみられるようになっています。また、長期的に島全体の隆起を示す地殻変動がみられ、多くの噴気地帯や噴気孔があり、各所で小規模な噴火が時々発生していることから、従来から小規模な噴火がみられていた領域も含め、今後も噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（火口周辺危険）発表中

阿蘇山

阿蘇山では、12月頃から火山活動に高まりが認められています。

GNSS連続観測では、12月頃から深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む基線及び広域の基線において伸びの傾向が認められています。マグマだまりへのマグマの蓄積が進行しているものと考えられます。また伸縮計・傾斜計では12月中旬頃から山体浅部の膨張を示唆する変動が観測されています。

全磁力観測では、中岳第一火口地下の温度上昇を示唆する変化が観測されています。

火山ガス（二酸化硫黄）の１日あたりの放出量は、11月までは200トン以下の状態で経過していましたが、12月に500トンとやや増加し、１月以降は1,000～2,000トンとさらに増加しています。

現地調査では、中岳第一火口の湯だまりは８月頃までは火口底の約６割でしたが、次第に減少し、12月には約２割まで減少していることを確認しました。南側火口壁の地熱域では12月から温度が上昇し、１月には585℃を観測しました。また、地熱域で赤熱を確認しました。

１月19日以降、夜間に監視カメラで火映を観測しています。

火山性微動の振幅は６月下旬からやや増大していますが、小さな状態で経過しています。

火山性微動の振幅は小さな状態ですが、地殻変動や火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加等、火山活動の活発化を示唆するデータが得られていることから、中岳第一火口の周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

薩摩硫黄島

薩摩硫黄島では、11月下旬から火山性地震が増加し、やや多い状態となっています。また、８月以降、振幅が小さく継続時間の短い火山性微動を時々観測しています。

火山ガス（二酸化硫黄）放出量は１日あたり1,000トン前後の状態が継続しており、時折噴煙が高くなるほか、夜間に火映を観測しています。

長期的には熱活動が高まった状態が続いていることから、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性があります。

なお、GNSS連続観測では、薩摩硫黄島の東側海域を中心とした膨張性と思われる中長期的な地殻変動がみられています。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

諏訪之瀬島

御岳（おたけ）火口では、噴火活動が継続しています。

６月中旬に爆発が増加し、一時的に噴火活動が活発化しました。

GNSS連続観測では、島の西側の深部におけるマグマの蓄積量の増加と推定される変動は認められません。傾斜計では、島の西側のやや深部へのマグマの蓄積と御岳火口直下へのマグマの上昇を示唆する変動は観測されていません。

島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態です。

諏訪之瀬島では、噴火活動が継続していることから、火口中心から概ね１kmの範囲に大きな噴石が達する可能性があります。

【参考】火口周辺警報（噴火警戒レベル２、火口周辺規制）発表中

雌阿寒岳

2023年12月８日から９日にかけてポンマチネシリ火口付近を震源とする振幅の小さな地

震が一時的に増加し、その後も12月下旬にかけてやや多い状態が続きました。同領域では、6月29日から30日にかけても地震が一時的に増加するなど、短期的な地震活動の活発化が時々認められますが、その他の観測データには特段の変化は認められず、火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

十勝岳

62-2火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では引き続き噴煙・噴気が多い状態で、熱活動が活発な状態が続いています。今後の火山活動の推移には注意が必要です。

なお、GNSS連続観測で2021年以降続いていた山体浅部の収縮を示すと考えられる地殻変動は、2023年夏頃以降、概ね停滞していますが、62-2火口のごく近傍の一部観測点では、地表面付近の局所的と考えられる変動が引き続き認められています。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

北海道駒ヶ岳

2023年12月以降、山頂火口原付近の海抜下１km付近を震源とする振幅の小さな低周波地震が発生しており、12月７日にはややまとまって発生しました。その後も１日当たり１回程度で発生が継続しています。

GNSS連続観測では、2022年頃から山頂火口原浅部（海抜下０～２km程度の領域）の膨張を示唆するわずかな地殻変動が観測されています。また、山頂に設置した監視カメラによる観測で、昭和４年火口で噴気が観測される頻度に2021年頃からわずかな増加傾向が認められています。

火山活動にやや活発化する傾向が認められており、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

吾妻山

大穴火口付近では火山性地震の発生頻度は低下し、低周波地震の発生頻度も低下しています。吾妻山深部の膨張は７月頃から停滞しており、９月下旬以降、大穴火口浅部の膨張は収縮に転じました。大穴火口周辺では、熱水活動がやや低下した可能性があるものの、全磁力連続観測では大穴火口周辺浅部の温度上昇を示唆する変化は鈍化しつつも継続していることなどから、今後の火山活動の推移に留意が必要です。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）

GNSS連続観測では、2023年５月頃から硫黄山近傍の基線において硫黄山付近の膨張を示すわずかな伸びが認められていましたが、11月頃から停滞しています。

硫黄山付近では、火山性地震は少ない状態で経過しています。７月７日に継続時間の短い火山性微動が発生しましたが、その後は観測されていません。

硫黄山火口内の噴気地帯では活発な噴気活動が続いていますが、更なる高まりは認められません。2022年11月以降、同噴気地帯の一部の噴気孔においてごく小規模な噴出現象や熱水の噴気孔外への流出が時折観測されています。硫黄山の西側500m付近では弱い噴気活動がみられています。

以上のことから、現時点では噴火の兆候は認められませんが、現在活発な噴気活動がみられている硫黄山火口内、及び硫黄山の西側500mの噴気地帯から概ね100mの範囲では、熱水・熱泥等が飛散する可能性があります。

【参考】噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）発表中

各地方の主な活火山の火山活動評価

１．北海道地方

①　アトサヌプリ

2021 年秋以降、アトサヌプリ西側（硫黄山の西方約５㎞）での深部の膨張を示す地殻変動が継続しており、その周辺ではＭ２以上の地震が時々発生するなど地震活動がやや活発です。これまでに、硫黄山付近の浅部地震活動や地殻変動、噴気活動に特段の変化は認められていません。なお、アトサヌプリ西側では、1993-1995 年に今回よりも膨張率、量の大きな地殻変動及びＭ２～３の地震活動がありましたが、硫黄山付近や湯沼付近などの熱活動には特段の変化はありませんでした。

火山活動は概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　大雪山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　樽前山

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

④　倶多楽

GNSS 連続観測で 2017 年頃から倶多楽の北西側深部の膨張を示唆する地殻変動が断続的に観測されています。火口想定域付近では、2016 年末頃から 2022 年夏頃にかけてごく浅部の局所的な収縮を示唆する地殻変動が観測され、熱活動にも一時的にわずかな高まりが見られるなど火山活動に変化がみられましたが、概ね静穏のうちに経過しました。

2022 年秋以降、火口想定域付近の火山活動に特段の変化はなく静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　有珠山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　恵山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

２．東北地方

①　岩木山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　八甲田山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　十和田

今期間、火山性地震の一時的な増加がみられたものの、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④　秋田焼山

GNSS 連続観測及び干渉 SAR 解析で、2020 年中頃からみられていた八幡平・秋田焼山周

辺での膨張性の地殻変動は2022年終わり頃から鈍化しており、地震活動や地熱域等の表面現象に特段の変化は認められていません。火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　岩手山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥　秋田駒ヶ岳

山頂付近では、2017年９月以降、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。そのうち女岳付近では2015年頃にかけて地熱域の拡大がみられました。その後大きな変化は認められていませんが、地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していることから、今後の火山活動の推移に留意が必要です。

⑦　鳥海山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　栗駒山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨　蔵王山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑩　安達太良山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　磐梯山

GNSS連続観測では、2022年後半から山体膨張を示唆する地殻変動が認められており、火山性地震は2022年11月からやや多い状態で経過し、12月末には活発な地震活動がみられました。地殻変動は、2023年10月頃から停滞している可能性がありますが、火山性地震は一時的な増加がみられるなど、2022年10月以前に比べて多い状態で経過していることから、今後の火山活動の推移に留意が必要です。

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①　那須岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②　日光白根山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③　草津白根山

草津白根山では、2014年や2018年に湯釜付近浅部への火山性流体の著しい供給の増加によると考えられる火山性地震の活発化と浅部の膨張などが観測され、2018年には本白根山で水蒸気噴火が発生しました。広域の地殻変動観測によると、2014年から2015年頃にかけて急激な変動が起こり、しばらく停滞した後、2018年頃から緩やかな変動が継続しましたが、2022年頃から停滞しています。

草津白根山の火山活動には消長があり、最近の火山活動は静穏な状態にあると考えられるものの、中長期的には再活発化も考えられ、今後も火山活動の推移に十分注意が必要です。

白根山（湯釜付近）

湯釜付近では、2021年１月下旬から低調な状態で推移していた地震活動は2022年４月頃からさらに低下した状態で経過し、全磁力観測で一部の観測点でみられていた火山活動の高まりの可能性も考えられる変化もみられません。傾斜観測からも、2018年以降観測されていた湯釜付近の地下浅部を膨張源とする緩やかな地殻変動が、2023年以降収縮傾向に転じていると推定されます。噴気の化学組成にも火山活動の高まりを示す明らかな変化はみられていません。

これらのことから火山活動は短期的に静穏な状況と考えられますが、湯釜湖水の成分分析から、湯釜への高温の火山性流体の供給は依然多い状態にあると考えられますので、再活発化に注意が必要です。

本白根山

鏡池北火口付近の地震は 2018 年 12 月以降少ない状態で、噴気も認められず、火山活動は静穏な状態で経過しています。なお、2022 年９月以降、逢ノ峰付近を震源とする地震にわずかな増加傾向が認められましたが、2023年６月以降は少なくなりました。

④　新潟焼山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤　弥陀ヶ原

地獄谷周辺の地震活動は低調で、火山活動によるとみられる地殻変動は観測されていませんが、地獄谷では、2012 年６月以降、噴気の拡大や噴気温度の上昇などがみられており、熱活動が活発な状態が続いています。今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑥　焼岳

山頂付近の微小な地震活動や、山頂付近での緩やかな膨張の可能性のある変化は継続しています。また、焼岳周辺では数年おきに震度１以上を観測する地震を含む活発な地震活動がみられます。中長期的に焼岳の火山活動は高まってきている可能性がありますので、今後の火山活動の推移に注意が必要です。

⑦　乗鞍岳

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧　御嶽山

地震活動は低調に経過し、GNSS 観測では地殻変動も停滞しています。

御嶽山の火山活動は静穏な状態に戻る傾向が続いています。ただし、地獄谷火口内では、突発的な火山灰等の噴出に引き続き注意が必要です。

⑨　白山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑩　富士山

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪　箱根山

地震活動は概ね低調に経過しましたが、2023 年５月以降火山性地震が時々増加することがあります。８月、10～11 月にも地震活動の一時的な高まりが観測されました。浅い

低周波地震や火山性微動は観測されませんでした。

GNSS 連続観測では、箱根山を挟む基線で 2023 年７月頃から伸びがみられ、９月頃から鈍化しましたが、11 月頃から再び一部の基線で伸びが認められています。また、５月頃からの噴気にマグマ性成分の供給増加を示唆する変化は引き続き継続しています。今後の推移に注意が必要です。

大涌谷周辺の想定火口域では活発な噴気活動が続いているため、火山灰等の突発的な噴出現象に注意する必要があります。

⑫　伊豆東部火山群

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑬　伊豆大島

熱活動、地震活動は概ね低調に経過し、火山性微動も発生しておらず、ただちに噴火が発生する兆候は認められません。 地下深部へのマグマ供給によると考えられる長期的な島全体の膨張は 2018 年頃からほぼ停滞していますが、これまでに供給されたマグマは地下深部に蓄積されていると考えられ、今後火山活動が活発化する可能性があります。

なお、短期的には、約１～３年周期で膨張と収縮を繰り返す地殻変動がみられ、膨張に伴い地震活動が活発化する特徴がみられます。

⑭　新島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑮　神津島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯　三宅島

地震活動及び噴煙活動は低調で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も極めて少ない状態が続いていますが、山体深部の膨張を示す地殻変動は続いています。山体浅部の膨張を示すと考えられる村営牧場南―雄山北東間で伸びの傾向は 2023 年に入り停滞していますが、引き続き地下のマグマの蓄積が進んでいると考えられることから、今後火山活動が活発化する可能性があります。また、主火孔の噴煙活動は弱いながらも続いており、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑰　八丈島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑱　青ヶ島

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲　ベヨネース列岩

2023 年１月 26 日、２月 17 日に明神礁付近で変色水が確認されました。その後の観測では変色水等は確認されていませんが、明神礁付近ではこれまでもたびたび変色水が観測されており、引き続き海底噴火が発生する可能性があります。

⑳　西之島

気象衛星ひまわりによる観測で、2023 年７月９日から 10 日にかけて噴火が確認されました。噴煙の高さは、最高で火口縁上 1,600ｍでした。上空からの観測でも、８月、10 月に噴火が確認されました。

気象衛星ひまわりの観測では、西之島付近の地表面温度は、2023 年３月上旬頃から周

囲と比較してわずかに高い傾向が認められていましたが、10 月中旬頃から再び周囲とほとんど変わらない状態となりました。

今期間の上空からの観測や海上からの観測では、火砕丘中央火口からの活発な噴気活動に加え、沿岸海域に変色水が確認されました。

衛星データの解析によると、二酸化硫黄は 10 月上旬まで放出が確認されました。変色水は継続的に観測されています。

以上のように、西之島は比較的活発な火山活動が続いています。これまでの活動経緯を考慮すると、今後、火山活動がより活発化する可能性もあります。

㉑　海徳海山

2022 年８月から変色水が観測されていましたが、2023 年５月以降は観測されていません。

海徳海山では、1984 年３月から６月にかけて、軽石の浮遊がみられるなどマグマが直接関与した可能性がある噴火が発生しました。また、変色水が数ヶ月にわたり観測されました。今期間認められた変色水も、火山活動の活発化を示していると考えられます。今後、噴火が発生する可能性がありますので、火山活動の推移に注意が必要です。

㉒　噴火浅根

気象衛星ひまわりによる観測では噴火は観測されず、2023 年９月 20 日までに繰り返し実施された上空からの観測でも、噴火浅根周辺海域で顕著な変色水や噴火によるとみられる浮遊物等は認められませんでした。噴火が発生する可能性は低くなっています。噴火の兆候は認められません。

㉓　福徳岡ノ場

2021 年８月下旬以降、噴火は認められないものの、引き続き、変色水域が確認されています。活発な火山活動が継続しており、今後も噴火の可能性があります。

４．九州地方・南西諸島

①　鶴見岳・伽藍岳

鶴見岳では火山性地震は少ない状態で経過しましたが、鶴見岳付近が震源と推定されるＢ型地震が時々発生しています。

伽藍岳付近では火山性地震は少ない状態で経過しています。

地殻変動観測では、特段の変化は認められません。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、想定火口域内では、噴気、火山ガス等の噴出が見られるため、火山活動の推移に留意が必要です。

②　九重山

火山性地震は少ない状態であり、噴気地帯の状況に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には地熱域の温度に低下が認められていますが、硫黄山付近の噴気地帯地下の温度上昇を示す全磁力の変化がみられています。今後の火山活動の推移に留意が必要です。

③　雲仙岳

GNSS 連続観測では山体西部のマグマだまりに対応する変動は認められておらず、火山活動は概ね静穏に経過しています。噴火の兆候は認められませんが、2010 年頃から普賢岳から平成新山付近の深さ概ね１～２km の火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意が必要です。

④　霧島山

霧島山では、７月～９月頃にかけて、韓国岳から韓国岳北東側周辺や、新燃岳の西側から大浪池周辺において、火山性地震の一時的な増加が時々みられました。

広域の GNSS 連続観測では、2022 年 11 月から霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びがみられていましたが、2023 年４月頃から停滞しています。

しかしながら、霧島山深部にはこれまでに多量のマグマが蓄積されていると考えられ、今後の火山活動の推移には留意が必要です。

えびの高原（硫黄山）周辺

（全国の主な火山活動評価を参照）

大幡池

火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められません。

新燃岳

新燃岳では、火口直下を震源とする火山性地震が 10 月下旬から 11 月上旬にかけやや多い状態となりました。また、８月下旬には新燃岳の西側２km 付近で地震が一時的に増加しましたが、それ以外は少ない状態で経過しました。

新燃岳火口内の噴煙及び新燃岳西側斜面の割れ目の噴気や地熱域の状況には特段の変化はみられていません。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は検出限界未満で経過していましたが、2023 年 10 月以降、やや少ないものの１日あたり 100 トン程度検出されています。

GNSS 連続観測では、2022 年 11 月頃から、霧島山の深い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びがみられていましたが、2023 年４月頃から停滞しています。

現時点では噴火の兆候は認められませんが、今後の活動の推移に留意が必要です。

御鉢

火山活動に特段の変化はなく、現時点では噴火の兆候は認められません。

その他の活火山の火山活動評価

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況が続いています。

１．北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

２．東北地方

恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

３．関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、男体山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孀婦岩、海形海山、北福徳堆、南日吉海山、日光海山

４．中国・九州地方・南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山